

第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略に 向けた基本的考え方

**Beyond Limits. Unlock Our Potential.
To the Next Stage.**

令和7年1月

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局

スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略（令和元年6月内閣府・文部科学省・経済産業省決定）に基づき、**エコシステムの中核となる拠点都市を8つ選定**（2020年7月）

【グローバル拠点都市】

①スタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム

（東京都、渋谷区、川崎市、横浜市、茨城県、つくば市、千葉市等）

スタートアップやVC・大企業等の支援者が圧倒的に集積する東京都心部（渋谷、六本木・虎ノ門、大手町・丸の内、日本橋）を核に、ハブ&スポークの連携で研究開発拠点を有する各都市（川崎、つくば、横浜、千葉）と連結。東京大、慶応大、早稲田大など有力大学連携で研究開発成果の事業化を促進。各自治体を中心としてスタートアップの新技术・新サービスの実証フィールドを提供。「新しい日常」に対応するデジタル・トランスフォーメーションも推進。



虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター「ARCH」

②Central Japan Startup Ecosystem Consortium（愛知県、名古屋市、浜松市等）

日本を代表する製造業の集積とスタートアップとの繋がりでのイノベーション創出を加速。モビリティ、AI・デジタル、インフラ、ヘルスケア、アグリ、光などを重点分野に協創プロジェクトを推進。名古屋大学を中心とする大学群で起業家教育・デジタル教育を強化。日本最大級のスタートアップ支援拠点「STATION Ai（フランスのSTATION Fと連携）」を整備。



NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE

③大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム（大阪市、京都市、神戸市等）

三都市の強みを融合（大阪：大企業、資金、人材、京都：研究シーズ、製品化支援、神戸：社会実証実験・公共調達）。ヘルスケア、ものづくり、情報通信分野に重点。大阪大学、京都大学、神戸大学を中心に大学・研究機関、企業が連携。「大阪・関西万博」に向け経済界を含め京阪神一体となった支援体制を構築し、スタートアップの新技术・新サービスの機会創出を実施。



Hack Osaka

④福岡スタートアップ・コンソーシアム（福岡市等）

2012年「スタートアップ都市宣言」以降、スタートアップカフェやFukuoka Growth Nextの設置など、官民共働でスタートアップ支援を実施。九州大学を中心としたアントレプレナー教育の充実や、独立系VCの活躍、大型スタートアップイベントの開催、海外との連携強化などエコシステム形成が加速中。国家戦略特区などの国の支援策に、市独自の施策を合わせることで、一貫通貫型のスタートアップ支援を実施。



Fukuoka Growth Next

【推進拠点都市】

⑤札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会（札幌市等） ⑥仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会（仙台市等）

⑦広島地域イノベーション戦略推進会議（広島県等） ⑧北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム（北九州市等）

※各拠点都市において、2020年度～2024年度の間で達成すべきKPIを独自に設定。

開始時 (2020年度～)	実績 (2023年度末)	KPI (2024年度末)	KPI達成率 (2023年度末)	主な取組
東京				<p>東京都心部を核として、つくば市・茨城県、川崎市、横浜市、千葉市とハブ&スポークの形で連携。</p> <p>自治体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタートアップ・エコシステムランキングで2024年世界10位を達成。東京都が中心となり、自治体、スタートアップ支援者、経済団体、大学等を巻き込み、海外展開支援やNextユニコーン創出等を推進。 ●スタートアップによる自治体の課題解決を目指し、実証実験や公共調達を推進。（東京都、渋谷区、茨城県、つくば市等） <p>民間の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●49社のVC、11社のアクセラレータが加盟。渋谷のQWS（東急）、丸の内のInspired Lab（三菱地所）、虎ノ門ヒルズインキュベーションセンターARCH（森ビル）、日本橋のライフサイエンス拠点（三井不動産）等が活動強化。 <p>大学の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トップ大学の集積に強み。25の大学がコンソーシアムに加盟し、スタートアップ創出・育成を推進。 <p>グローバル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界的スタートアップイベントを誘致・開催し東京圏のスタートアップ情報を発信。アジアからの投資呼び込みに重点化。 ●外国企業誘致に向けPRや窓口強化。スタートアップビザの活用等により外国人の創業活動を促進。
ユニコーン				
3社	13社	20社	65%	
スタートアップ・エコシステムランキング				
ランキング対象外	世界10位	世界10位	—	
大学発ベンチャー数（加盟大学の総計）				
533社	1,643社	倍増 (1,066社)	達成	
行政課題解決プロジェクト創出数				
—	137件	50件	達成	
名古屋・浜松				<p>世界的な製造業の集積地において、研究開発の集積から生まれるディープテックを活かしたエコシステムを形成。</p> <p>自治体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタートアップ支援拠点「STATION Ai」を2024年10月供用開始予定。2020年1月に早期支援拠点を開設、2021年4月に「PRE-STATION Ai」に拡充し、STATION Ai供用開始まで切れ目のない支援を実施。 ●小中高生向け起業家教育から世界を目指すJ-Startup CENTRAL企業の集中支援まで幅広い取組を実施。また、スタートアップと地元企業との共創を促進（愛知県、名古屋市）。 ●浜松市の認定VCが市内スタートアップに投資した場合、同額を市からスタートアップに交付するファンドサポート事業を実施する等、浜松市と地元支援者が協力してスタートアップを支援。先輩経営者による支援で地域の好循環を創出。 <p>大学の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東海地域21大学が連携しアントレプレナーシップ教育を行う「Tongaliプロジェクト」を学生や若手研究者を対象に提供。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●STATION Ai（愛知県）、ナゴヤイノベーションズガレージ（中部経済連合会・名古屋市）、なごのキャンパス（トヨタ不動産等・名古屋市）、Idea Stoa（Tongali）、Co-startup Space & Community「FUSE」（浜松市）等のスタートアップ支援拠点において交流・育成を促進。 <p>グローバル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5か国、14の先進的なスタートアップ支援機関や大学との連携体制を構築。（愛知県） ●STATION Aiを核とするスタートアップ・グローバルコミュニティを形成。
ユニコーン				
0社	0社	5社	—	
売上100億円以上のスタートアップ				
0社	1社	10社	10%	
資金調達額				
87億円	793億円	1,000億円	79%	
海外スタートアップとのビジネスマッチング共創件数				
—	589件	400件	達成	

開始時 (2020年度～)	実績 (2023年度末)	KPI (2024年度末)	KPI達成率 (2023年度末)	主な取組
<h2>大阪,京都,神戸</h2> <h3>ユニコーン</h3>				<p>京阪神3地域共通の強みであるバイオ・ヘルスケア・ライフサイエンス、ものづくり、IT分野において、地域間のシナジー効果を発揮し、スタートアップの創出・育成を推進。</p> <p>自治体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●J-Startup KANSAIで選定した有望スタートアップを京阪神の施策で優先的に支援し飛躍的成長をサポート。 ●スタートアップによる行政課題解決と公共調達を推進するUrban Innovation Kobeを、Urban Innovation Japanとして全国展開。 <p>大学の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●京阪神の強みであるバイオ・ヘルスケア分野のシーズを生かし、製薬企業等と連携して大学発ベンチャーを育成。京都大学を中心とし、大学、経済団体、金融機関、自治体等が一体となり「京阪神スタートアップ アカデミア・コアリッション」として連携。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●京都経済センターのオープンイノベーションカフェ(KOIN)(京都市)、大阪イノベーションハブ(OIH)(大阪市)、ANCHOR KOBE/起業プラザひょうご(神戸市)等の、スタートアップ育成・連携の場を整備。 <p>グローバル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際イノベーション会議Hack Osakaにおいて、イノベーションの成果を世界に発信。世界に起業家が挑戦するピッチコンテスト、商談会等を実施。海外アクセラレーター(500 Startups、Plug and Play)を誘致。
0社	1社	5社	20%	
<h3>スタートアップ創出</h3>				
271社 (過去5年)	800社増	542社増	達成	
<h3>大学発ベンチャー</h3>				
82社 (過去4年)	239社増	214社増	達成	
<h2>福岡</h2> <h3>ユニコーン</h3>				<p>都市機能やスタートアップ支援施設がコンパクトに集積する福岡においてスタートアップを創出・育成し、スタートアップが福岡からアジア・世界へ展開するエコシステムを形成。</p> <p>自治体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福岡地域戦略推進協議会(FDC)の協力を得ながら、スタートアップコミュニティの形成を促進。新規創業促進補助金を活用した、会社設立時の登録免許税実質0円での創業を実現するなど、すそ野を広げる取り組みに加え、IPOに向けた成長支援プログラムを実施。また、社会課題解決に向けた実証実験を全面的にサポートする「実証実験フルサポート事業」により公民連携の支援を推進。 <p>大学の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●九州大学が中心となり、文部科学省事業EDGE-NEXTによるアントレプレナーシップ教育等を推進。また、プラットフォーム(GAP NEXT)において、大学発ベンチャーシーズに全国で募集した事業化サポート人材を配置するCXOプロジェクトを開始。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誰でも気軽に創業相談が可能な「スタートアップカフェ」に加え、官民共働のスタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」や、エンジニアフレンドリーシティ実現のため、「エンジニアカフェ」によるコミュニティ活動等を支援。 <p>グローバル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタートアップビザ、スタートアップ賃料補助、スタートアップ法人減税、グローバルスタートアップセンターでの支援、Fukuoka Growth Nextでの成長支援を実施。これらを「福岡市スタートアップ・パッケージ」として発信し、海外から起業家を呼び込み。 ●フィンランド(ヘルシンキ市)等11カ国・地域・15拠点とのMoU等による連携を活かし福岡と海外双方のスタートアップの進出・マッチングを支援。
0社	1社	5社	20%	
<h3>時価総額10億超</h3>				
32社	61社	100社	61%	
<h3>スタートアップVISA認定数</h3>				
57社	114件	114件以上	達成	

スタートアップ・エコシステム拠点都市の取組の概況 (3/3)

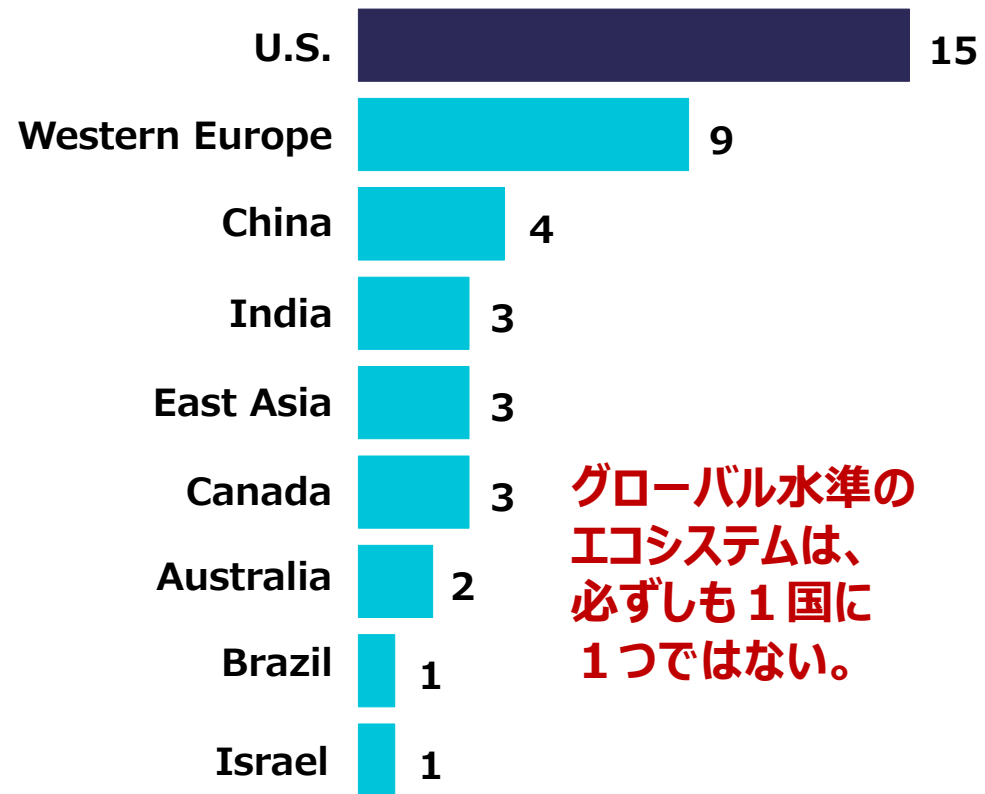
開始時 (2020年度～)	実績 (2023年度末)	KPI (2024年度末)	KPI達成率 (2023年度末)	主な取組
札幌 当該年度で資金調達するスタートアップ				北海道の基幹産業である農業、漁業、林業等の1次産業や、広大な実証フィールドを生かした宇宙産業等、北海道の強みを生かし、札幌市が中心となり帯広市などと連携し北海道全域のスタートアップ・エコシステムを形成。 自治体の取組 ●札幌市の支援施策STARTUP CITY SAPPOROや大規模イベントNoMapsを中心として起業家育成、スタートアップと自治体とのマッチング、ピッチコンテスト、先端技術展示・実証等を実施。J-Startup HOKKAIDOで北海道全域から企業を選定し支援。 ●ライフサイエンス分野に特化した官民ファンド設立。地元企業によるインキュベーション拠点等民間の取組も活発化。 大学の取組 ●北海道大学が地域の大学と連携し社会課題や大学等の研究開発成果を基にした起業を促進。また、北欧発の国際的な企業課題解決ネットワークDEMOLAに参画し、企業や地域の課題解決を通してアントレプレナーシップ教育を実施。
23社/年	20社	50社	40%	
当該年度での資金調達額				
34億円	63億円	100億円	63%	
仙台 ユニコーン				東日本大震災を契機として社会課題解決を志向する起業家が増加する「ソーシャルイノベーターの聖地・仙台」を中心として、東北地域から国内外の課題解決に資するスタートアップを創出。 自治体の取組 ●J-Startup TOHOKU等によりイノベーションの創出及び社会的課題解決等を目指しながら事業拡大するスタートアップを支援。東北グロースアクセラレーター、SENDAI NEW PUBLICによる支援や、SENDAI for Startups!等のイベントを開催。 ●震災を契機に国際連携。INTILAQ設立、MAKOTOとイスラエルの連携による支援プログラム提供など、民間の取組も活発化。 大学の取組 ●材料科学、スピントロニクス等に強みを有する東北大学において、学生向け東北大学アクセラファンド、EIR(住み込み起業家)、東北全域等の大学発ベンチャーを対象とするみちのくギャップファンド設立。スタートアップ育成、成長支援等をシームレスに実施。 ※ユニコーン企業1社は東北大学発SU「クリーンプラネット」
0社	1社*	1社	達成	
スタートアップ創出(累計)				
29社	370社	300社	達成	
資金調達額(単年度)				
25億円	62.2億円	50億円	達成	
広島 イノベーション活動実行企業率				海・山・都市が近接した実証フィールドと、国際平和都市としての世界的知名度を活かし、平和都市として世界に知られる広島から社会課題解決を目指すイノベーションを創出。 自治体の取組 ●イノベーション・ハブ・ひろしまCampsを拠点としてエコシステムを形成。ひろしまサンドボックスで新技術のマッチングや実証を行い、課題解決を目指すスタートアップを集積。マツダのリードで産学官金が連携し、ものづくりのデジタル化を担う人材育成及び研究開発を推進。広島県出資ファンド等により地元スタートアップに資金供給。T-Hub(インド)とパートナーシップ締結。 大学の取組 ●地域の産学官金のプラットフォームを構築し、企業ニーズと大学シーズをDXで迅速にマッチング。米アリゾナ州立大経営大学院を広島大に誘致すると共に、東広島市との一体的活動で地域課題解決を行う国際交流拠点整備。学生起業支援強化。
—%	53.6%	50%	達成	
イノベーション実現企業率				
—%	42.2%	45%	94%	
北九州 ユニコーン				公害を克服した北九州市はSDGs未来都市実現を目指し、環境・ロボティクスの強みを活かしたエコシステムを形成。 自治体の取組 ●市の創業支援の拠点COMPASS小倉内に開業ワンストップセンターと、雇用労働相談センターを設置。民間主体のグローバルアクセラレーションプログラムによる伴走支援や北九州市が認定したVCが投資したスタートアップ企業に対し事業化や技術開発に必要な経費を支援するスタートアップSDGsイノベーショントライアル事業を通じて成長を支援。 大学の取組 ●九州工業大学を中心とした産学連携と起業支援で、環境・ロボティクス分野で日本版IMEC(ベルギー)を目指す。
0社	0社	1社	—	
市内スタートアップ				
22社	73社	100社	73%	

※上記のうち、「ユニコーン」には上場等EXITした企業を含む場合がある 4

スタートアップエコシステムランキング (Startup GENOME社)

1	Silicon Valley	11	Shanghai	⬇️
2(tie)	New York City	12	Washington D.C.	⬇️
2(tie)	London	13	The Netherlands	⬆️
4(tie)	Los Angeles	14	Paris +4	⬆️
4(tie)	Tel Aviv ⬆️	15	Berlin	⬇️
6	Boston	16	Miami +7	⬆️
7	Singapore ⬆️	17	Chicago +2	⬆️
8	Beijing ⬇️	18	Toronto-Waterloo	⬇️
9	Seoul +3 ⬆️	19	San Diego	⬇️
10	Tokyo +5 ⬆️	20	Seattle	⬇️

国あるいは地域における トップ40以内のエコシステム数 (東京は東アジアとしてカウント)



**グローバル水準の
エコシステムは、
必ずしも1国に
1つではない。**

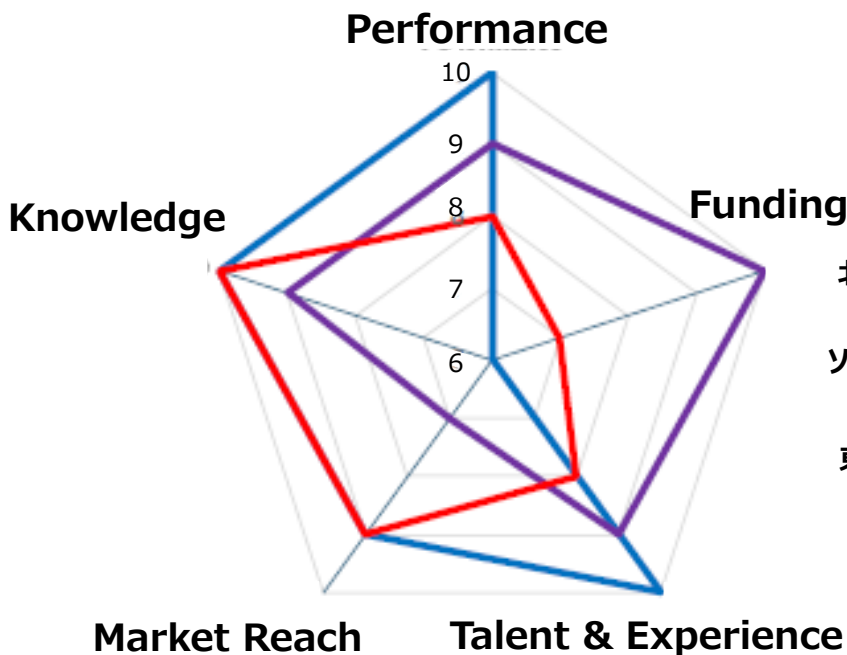
**米中印に限らず、カナダやオーストラリアでも、
複数のエコシステムが1国内に存在。**

評価指標

Performance	エコシステム価値 エグジット、SU成功状況	30%
Funding	アクセス、質、投資家の活動	25%
Talent & Experience	スケールアップ経験、 スタートアップ経験、 テック人材	20%
Market Reach	グローバル化リーダー企業、 国内市場のカバー、 海外とのネットワーク	20%
Knowledge	パテントなど	5%

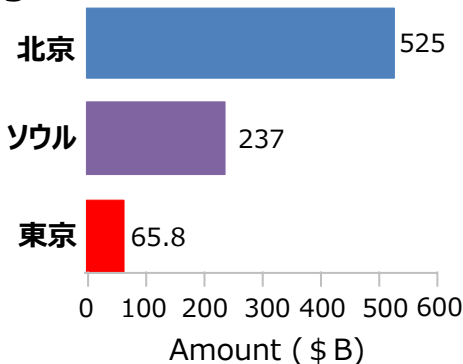
Startup GENOMEのレポートにおいても、日本の課題は明白。
 グローバル水準に近付くためには、Performance（エグジット、SU成功状況等）、Funding（投資の質・量、アクセス）の伸びが必要。

■ 日中韓の首都比較 (— 東京, — 北京, — ソウル)



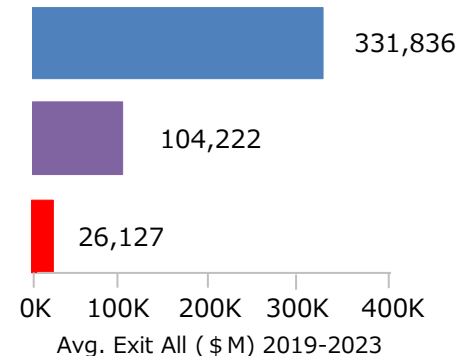
Ecosystem Value

Ecosystem impact, calculated as the value of exits and startup valuations. (H2 2021-2023)
 Amount (\$ B)



Exit Value

The cumulative value of exits in the ecosystem. (2019-2023)
 Amount (\$ M)



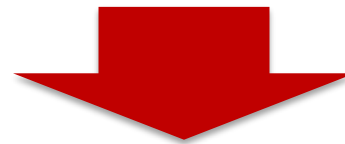
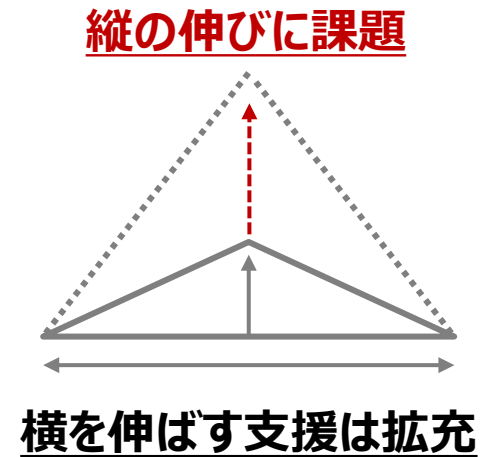
<https://startupgenome.com/ecosystems>

<達成できている点>

- ✓ 大学発を含むスタートアップ創出数は概ね達成。
- ✓ 行政課題解決プロジェクト創出数やビジネスマッチング件数等の共創数についても概ね達成。
- ✓ その他、各都市においてエコシステム内の繋がりは形成できつつある。

<発展途上である点>

- ✓ グローバルに成長する、稼げるスタートアップを創出できていない。
- ✓ 投資などの面で、海外のスタートアップ・エコシステムとの繋がりが十分に構築できていない。



各拠点都市が、スタートアップの成長を加速させるために、グローバル水準の都市エコシステムへ引き上げることが重要

Startup City Project Network

- ✓ スタートアップ・エコシステムのステークホルダーたちが、各拠点都市の中での交流にとどまらず、国と各拠点都市間での交流をさらに進め、日本全体としてのネットワークを構築しようとするための新たな取組を本年7月から開始。

<狙い>

- エコシステムが直面する課題を共有し、解決について考える
- エコシステムに関わる実務者が拠点都市の枠を超えて人脈形成
- 各エコシステムの個性や特色を最大に生かしつつ、拠点都市と日本全体のエコシステムの未来を一緒に考える



<取組>

- Startup City Project Networkの「場」を活用した拠点都市の実務者とのワークショップ等による対話を通じて、スタートアップ・エコシステム拠点都市形成に向けた今後について検討



<活動実績等>

国・拠点都市の実務者が立場を超えて人脈形成し、一緒に方向性を検討していく

	テーマ	日程	開催方法
キックオフ	スタートアップ・エコシステム拠点都市フォローアップ報告会 ～スタートアップ・エコシステム拠点都市の未来～ (パネルディスカッション)	令和6年7月30日 (火)	大阪大学中之島センター (大阪府大阪市)
第1回	拠点都市報告会の振り返り	令和6年8月7日 (水)	オンライン
第2回	スタートアップ・エコシステム拠点都市のグローバル展開促進に向けて	令和6年9月13日 (金)	社交場 ヤング (札幌市役所本庁舎内) ※オンライン併用
第3回	持続的なエコシステム構築に向けたコンソーシアムの在り方について	令和6年10月16日 (水)	オンライン
第4回	スタートアップの成長を促進するためのオープンイノベーション (多様な主体との共創) や公共調達の促進	令和6年11月1日 (金)	Station Ai (愛知県名古屋市)
第5回	アントレプレナーシップ教育の推進	令和6年12月4日 (水)	オンライン

- ✓ 今後も月1回程度ワークショップ等を開催し、拠点都市形成に向けた今後について検討していく。

スタートアップの数から成長へ

世界に組み込まれ主要な役割を果たす
日本のエコシステムを形成し、
グローバルに成長し稼げるスタートアップを創出する

世界とシームレスに繋がる

海外VC、スタートアップ、海外エコシステムとの連携
エコシステム活動の一体的プロモーション

スタートアップの成長を支援する

大学、大企業、地場中堅・中小企業等とのオープンイノベーション促進
自治体等による公共調達を通じた初期市場創出

持続的で真に強いエコシステム形成の土台を作る

アントレプレナーシップ教育等を通じた人材育成、エコシステムの核となる人材の確保、
府省庁・拠点都市を超えた一体的な連携体制を通じたエコシステム強化

横を伸ばす支援は拡充

- ✓ スタートアップの成長を加速させるため、各拠点都市が有する強みを活かしてグローバルに接続したエコシステムを形成するとともに、エコシステムの裾野を拡大させる。
- ✓ このため、現行拠点都市の枠組みについて以下の3類型へ発展的に改組し、また、現行拠点都市外でも大学発スタートアップ創出等を目指したエコシステムの活動が活発化している状況に鑑み、公募により、原則、NEXTグローバル拠点都市として数か所程度新規選定。

《現行枠組み》

グローバル拠点都市

推進拠点都市

- ・成長加速に向け、更なるグローバル化推進など次フェーズの取組へ。
- ・その際、都市の特性に応じた取組を推進。



- ・裾野拡大に向け、数都市を新規選定

《新しい枠組み》

グローバル拠点都市

広域ネットワーク型：自治体・支援機関・大学など多様で複層的なプレイヤーを有する強みを生かして多数の分野・領域や都市を中心として世界的なネットワークを形成するエコシステム

中核都市型：数個程度の分野への重点化や特色の強化などを通じ中核となる都市を中心として海外エコシステムとの強固な連携体制を構築するエコシステム

Startup City Project Network
を通じた日本全体での連携

NEXTグローバル拠点都市

地域の尖がった産業構造やリソースを活かして、地域経済を活性化しながら海外エコシステムにも繋がるエコシステム

※「基本的考え方」公表時点。今後スケジュール変更もありうる

1月7日

基本的考え方 公表
基本的考え方に基づく次期拠点都市 募集開始

3月4日

募集締切
(審査)

6月頃

次期拠点都市 決定
第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略 公表
※戦略公表に併せ、政府支援パッケージをとりまとめる予定